

第88回 選抜高校野球大会

第7日

第88回選抜高校野球大会
第7日は、甲子園球場
以来のベスト。

で、面談3試合が行われ、木更津総合(千葉)、明石南(兵庫)、龍谷大平安(京都)が勝って、準々決勝に進出した。木更津総合は1点を奪う三回、5長短打で4点を奪う逆転。左腕投手が大活躍の反響を許さず、4-1で破った。木更津総合は45年ぶりの8強入り。春選で初出場の明石南は吉高が春4度の優勝を誇る東邦(愛知)を5安打に抑え、3-0で完封した。龍谷大平安は0-0で八学光星を下した。先発の市岡は5安打で完封し、優勝した014年

2 回戦

◇龍谷大平安(京都) 9時29分、三回
八学光星
1000000000
100001000X
20

(主)市岡、櫻井、奥村
△二塁打、奥村、西川、久保田、伊藤、藤田、徳田
2、小田、小川、西川、橋本、登壇、久保田、藤田、市岡
▽試合時間 1時間46分

【甲】光星は再三、得点圏に走者を進めながらも、10残塁で完封負け。初回は1死から奥村の右中間二塁打で好機をつくり、二、六、八回は先頭が塁したが、いずれも二が本が出なかった。左腕市岡の制球に付込み、6四球を絡めて攻め立てながら、一回以降は三塁を絡めなかった。先発市岡は初回、左前寄る速球で二塁を陥れたものの、その後は走者を低めに決め、六回途中まで先頭まで好投。教習の主腕櫻井も無失点の力投を見せたが、最後まで打線の活躍に恵まれなかった。

| 打者 | 投手 | 安打 | 二塁打 | 三塁打 | 本塁打 | 犠打 | 犠飛 | 盗塁 | 失点 | 失誤 | 得点 | 打点 | 打席 | 三振 | 四球 | 暴投 | 捕逸 | 試合時間 |
|-------|------|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 龍谷大平安 | 八学光星 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 37 | 15 | 2 | 8 | 0:50 |
| 八学光星 | 市岡 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1:46 |

10残塁好機に一本出ず 光星ホーム遠く



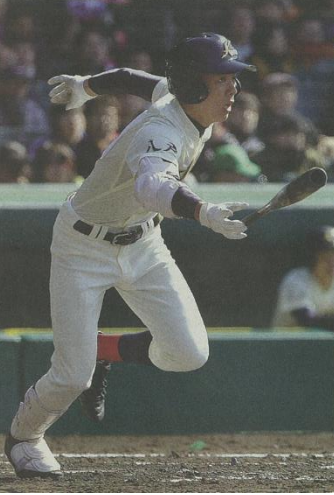
10残塁好機に一本出ず

毎回のように塁上をぎざぎざさせながら、最後までホ人が逃がった光星。打撃の強化を重要課題に掲げ、冬の訓練を乗り越えたサインだったが、「相手は球に食いついてきた。振ってきたら勝てると思ったが、また足りない部分がある。無安打に移った志益田教習はワンチャンスをものしし平安打線との違いを感じた。

焦点

たと言った勝負を背負い込んだ。同じく無安打に終わった、八回は2死一三塁二塁に陥れた小林直輝は「相手よりチャンスは多かった。最後の一本が出なかったと肩を落とした。冬場は練習後、部員全員が1500回の素振りや、部員全員が10安打で打ち勝つ。初回は一定の成果を示した。だが、この試合は「勝負どころで市岡の球球と堅い守備、うちの打撃の力がない。そこを大きな差があったと仲井監督。

田城 2 安打



「うまく対応できた」

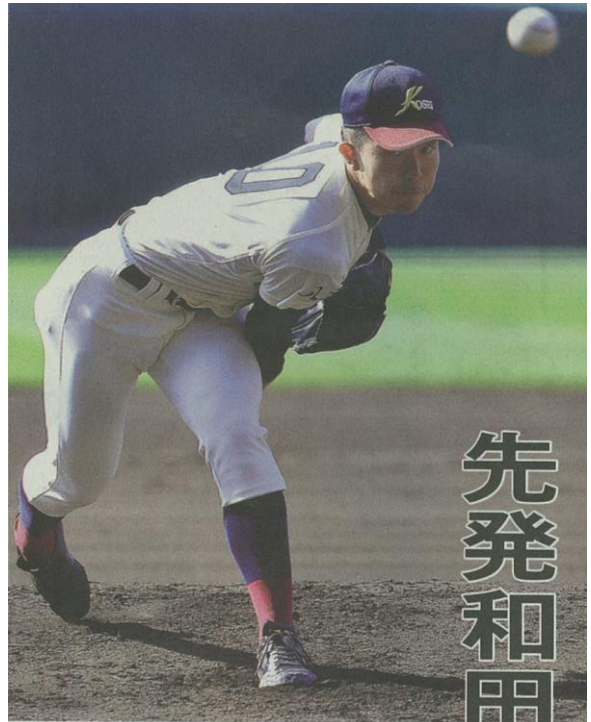
○初戦の閉塞(閉塞) 安打した。戦で無安打だった光星の3番打者、田城は初戦はの試合、3打数2安打。1打席こそ凡退したが、二回の死の打撃は「一進一退は苦しい粉砕されたが、うまく対応できた」と右腕。六回は先頭で打席に入り、遊撃への当たりを「何となく出てかき回したい」と強い。勢いが上がったと満足を感じて、野



伊藤 攻守で見せ場

○…1番打者、二塁手として、攻守で見せ場をつくった光星の伊藤優平。二回には難しい当たりを好捕し、体を回転させながら送球する好プレー。塁に出れば、次塁を狙う姿勢を見せて相手にプレッシャーをかけた。七回にはセンター返して二塁

2回の守りで右前に抜けそうな打球を好捕し一塁に送球する光星の伊藤優平



先発和田 力投光る

○：甲子園初先発の大と落ちる先制打を許した。投。光星の背番号10・和田 甲子園の洗礼に「落ち着悠弥は左のマウンドさばいて次を抑えたい」ときで相手エースと投げ合 崩れることはなかった。い、3万人の観衆を魅了する 二回以降は「気持ちで攻る好ゲームを演出した。先発を告げられたのは初戦の直後だった。試合前はあるカットボールを低めに「めっちゃめちゃ緊張して集め、内野ゴロでリズム良ます」と表情をこぼはせくアウトを重ねた。ていた和田。初回一一走の二塁打を許し、犠打後に決まれ、左翼線にほり降板した。甘い球は打た甲子園初マウンドで、6回い。手心えも課題も見途切失点の力投を見せたつじた聖地のマウンドだった。光星の和田悠弥

主戦櫻井 気迫の継投

○：初戦を投勝利した光星の出番は六回一死三塁のピンチに訪れた。「試合前が準備しとけよ」と言われていた。甲子園のマウンドをう試合経り、ブルペンで肩をつくりながら、先発和田悠弥の力投を「緊を浴びて追加点を許したが、いの良さを伸ばしたい。夏に青張したと思うが、それなりに頑一次の点を防げばチャンスは来森大会で優勝して、またここに張っている」と見守った。チームを窮いつけるピッチ戻って」と誓った。



2番手で登板した光星の櫻井一樹

逆転信じ応援

○：光星は序盤から相手を追いつける展開。三塁側のアルプススタンドでは、最後まで逆転を信じ、声からしての応援が続いた。チアリーディング部の萬谷美有さん(17)は「選手に伝わるように笑顔で応援する。負けているけど、まだまだこれから」とはつらつとした躍りや声で応援団をリードした。前チームの投手で、プロ野球中日から育成ドラフト5位で指名され

た呉屋開斗さんの妹杏香さん(17)「兵庫県尼崎市」は「何とか頑張ってほしい」とエール。健闘及ばず逆転はならなかったが、前チームのマネジャー齊藤明太子さん(18)は後輩たちの戦いぶりに「雰囲気はたくましくなると感じる」と笑顔を見せた。